

第17回ソバ研究会開催要領

ソバゲノム研究の最前線

国産そばの需要に応えるためにも、ソバの生産性向上が望まれている。そこでは生産技術の向上はもちろんのこと、それを支える新たな品種の育成が不可欠である。近年、いくつもの新品種が育成されてきているが、必ずしも育成された品種数が多いとは言えず、改良の速度も期待に込んでいるとは言えないのが現状である。一方、この数年、ソバにおいてもゲノム情報の集積は目覚ましいものがあり、イネやダイズなどと同様にこれを活用した新品種の育成に期待が寄せられている。ゲノム情報に基づくことで、他の主要作物と同じ次元で品種開発が進むこと、ソバの育種・生産・流通・実需に関わる多くの人の多様な要求にも迅速に応えられるようになることが期待される。第17回ソバ研究会では、ソバのゲノム研究の基礎と現状、並びに育種における利用の現状について、平易に解説すると共に、ゲノム解析の基礎からその情報を利用した育種への展開について検討したい。

1. 日時 2017年2月11日(土) 13:00~16:30

2. 場所 筑波大学春日エリア春日講堂

3. 内容

● 話題提供

ソバ遺伝子研究の現状とその育種への利用

農研機構次世代作物開発センター 松井勝弘 氏

ソバのゲノム研究基盤の構築

京都大学農学研究科 安井康夫 氏

ゲノム情報を駆使したソバ重要形質の遺伝解析

筑波大学生命環境系 原 尚資 氏

● 討議

4. 参加費 無料

5. 参加定員 200名

〔 申込み順に参加受付を行います。
定員に達しましたらご参加いただけませんのでご了承ください。 〕

6. 参加要領

本研究会は研究者、行政担当者、普及担当者、実需者、生産者など幅広い方々の参加を歓迎いたします。本研究会に参加を希望される方は、メール、Faxで氏名、勤務先、所属、役職、郵便番号、住所および電話番号、メールアドレス 並びに懇親会(春日福利厚生棟内食堂、4,000円)参加の有無を2月3日(金)までに下記へ電子メールで連絡してください。なお、会場の都合上、定員がございますので、参加申し込みの早い順に参加を連絡します。ご留意下さい。

当日はパンフレット、製品、産物などの展示を受けつけます。希望者は事務局まで参加登録時に展示内容について連絡して下さい。また、懇親会は持ち込みも可能です。産地の名産品などの飲み物や食べ物の持ち込みを歓迎します。

7. 申込先 筑波大学農林技術センター 地域交流普及班

E-mail: soba@nourin.tsukuba.ac.jp

8. 主催 筑波大学農林技術センター

9. 共催 筑波大学フードセキュリティーリサーチユニット

会場への道筋

- Txでお越しの場合 Tx 最終駅、つくば駅で下車、A1もしくはA2 出口から地上に出て徒歩 10 分です。

- 車で起こしの場合

常磐道「桜土浦 IC」で降り、東大通りを約 5.2km 北上し、左折して北大通りに入り、2つ目の信号を左折すると「筑波キャンパス春日エリア」に到着します。



キャンパスマップ 春日地区

